

ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part 1A

Japanese Studies

---

---

**J.3 MODERN JAPANESE TEXTS 1**

*Answer ALL questions*

*Write your number not your name on the cover sheet of each Answer Book.*

**STATIONARY REQUIREMENTS**

*20 Page Answer Book x 1  
Rough Work Pad*

**SPECIAL REQUIREMENTS**

*none*

**You may not start to read the questions  
printed on the subsequent pages of this  
question paper until instructed that you may  
do so by the Invigilator.**

## SECTION A

1 Translate the following passage from a seen text into **English** and answer the accompanying questions:

(a) [12 marks]

近辺の道路には、夜になると暴走族が出没する。関わりになつては危ないし、それ  
 でなくても女の子が一人歩きできるような時間帯ではない。早くアパートに帰るべき  
 なのだが、どうしても足が向いてくれない。どだい、こんな深夜に用もないのにコン  
 ビニエンス・ストアへ行ったのも、別にカップ麺やアイスクリームが食べたかったか  
 らではなく、狭い部屋に一人でこもっていることに堪えられなかったせいなのだ。  
 どっちにしろ、眠ることもできないのだし。  
 課長に向かってあんなことを言っちゃったんだし、これはもう辞表を書くしかない。  
 どうせなら、行つたついでに「とらばーゆ」も買ってくればよかった、と思った。  
 口論の原因は、他愛のないことだった。  
 七月一日付で中途採用されることになっている新人の女の子が美人だということで、  
 経理課の社員たちが騒いでいたのだ。そこへ、三時のお茶を盆に並べた聡美が戻つて  
 きた。すると、聡美の後輩の若い男子社員が、笑いながらこう言った。  
 「長崎さん、来月からもう、お茶くみをしないでよくなりますね」  
 さして広いオフィスではないので、給湯室にいても、経理課員たちの話し声は聞こ  
 えていた。新しい女子社員が来るというそれだけのことで、遠足の前日の小学生みた  
 いに浮き浮きしている。聡美はそれを、なんとなく面白くない思いで聞いていたのだ。  
 だから、後輩のその言葉はうれしなかった。彼は気をつかつて、年下の女性が入るの  
 は聡美にも得なことなのだ」というふうには、話を振ってくれたのだ。  
 ところが、それをあの黒坂課長が台無しにしてしまった。  
 「我々だって、若いびちびちした女の子のいれてくれたお茶を飲みたいしな」

MIYABE MIYUKI, 'Iwazu ni oite', in *Henji wa iranai* (2010), pp.1-2

- (b) 帰るべきなのだ Explain the use of べき and give two examples of its uses with translations [4 marks]  
 (c) 買ってくれば Analyse this phrase and give an example of the use of てくる with a translation [4 marks]  
 (d) してしまった Explain the implications of the usage of -て with しまう, give two more examples and translate them into English. [4 marks]

2 Translate the following passage from a seen text into **English** and answer the accompanying questions:

(a) [12 marks]

優先席をめぐる困惑

しかし、現実はなかなかそう簡単にはいかない。優先席が優先席として機能するためには、優先されるべき人間が電車に乗ってきたら優先席に座っていた非該当の乗客が席を譲らなくてはならないわけだが、そうしない理由はたんにモラルの低下のためだけではない。座席を他人に譲るという行為にはある種の勇気がいるのだ。第一に、それは席を譲らずにいる他の乗客に対する非難、つまり「みなさんは席を譲らないのですね」というメッセージを含んでいる。もし周囲の乗客が席を譲る人に対して賞賛だけを与えるのであれば、席を譲るという行為はずっとしやすくなるだろうが、実際は、「いい格好しやがって」「私たちに恥をかかせたわね」というまなざしも含まれているのである。第二に、席を譲ろうとしても、相手に「いえ、けっこうです」と断られるかもしれない。これは高齢者に席を譲ろうとするときにしばしば発生する事態である。現代社会は「若さ」に価値をおく社会なので、自分が高齢者に見られること、高齢者として扱われることを忌避する雰囲気がある。「私はまだ若い」「年寄り扱いしないで」というわけである。そのため、誰がどうみても間違いなくお年寄りという場合は別として、高齢者（らしく見える人）に席を譲る場合は、その人の態度を見て（席を譲ってほしいような素振りをしているか否か）判断を下さなくてはならないのである。

ŌKUBO TAKAJI, *Nichijō seikatsu no shakaigaku* (2008), p. 66

(b) 譲らなくてはならないわけだが Explain the use of わけ and give two examples with translations [4 marks]

(c) 高齢者にみられること、高齢者として扱われること. Explain the grammar of these two phrases, give one other example of a similar usage and translate [4 marks]

(d) 下さなくてはならない Analyse this phrase and give an example of the use of なくてはならない with a translation [4 marks].

(TURN OVER

## 3 Translate the following passage from a seen text into English: [12 marks]

「西欧の学問を学びたい」という人々は「長崎遊学」に向かいます。当時は、長崎が唯一の西欧文化の入り口で、全国から学問の志のある青年が集まりました。学びたいという気持ちさえあれば資格は必要ありませんでした。

当時の絵を見ると、「通詞」とオランダ人が立ち話をしている様子が描かれています。その横ではチェロやバイオリンなどの室内楽が演奏されています。優雅な一コマです。

通詞は、通訳というより学者に近い人たちです。専門用語をたくさん知って、その国の文化や風俗をすべて熟知していなければ、日本語に置き換えられないからです。エリート中のエリートで、通詞から医者になる人もいました。通詞のトップが「大通詞」という人たちで、これは数えるほどしかいません。日本の知識階級の頂点に立つ人たちです。

長崎遊学で学ぶのは、オランダ語の他、医学、天文学、兵学などです。学生たちは、二十〜二十五歳くらいまでで、入る前に下地ができていて、オランダ語の基本的な文

question 3 continued)

法は習得済みです、  
 「遊学」といいますが、実際には非常に過酷な、猛勉強の日々で、学問のしすぎで亡くなってしまう学生もいたくらいです。十日間で「二刻半」(三時間)くらいしか寝ないという人も珍しくありません。食事の時間も惜しいので、立ったまままで食べました。  
 遊学生たちのアルバイトで、一番効率がよかったのが「写本」です。オランダ語の本を書き写して、それを売るので、一番需要が多かった『ドゥーフ・ハルマ』という蘭和辞典だと、一冊丸々書き写して十二、三両になりました。自分用に書き写すついでに、もうひとつ書き写します。ひとつは自分で使って、ひとつは売るので、一石二鳥でした。

SUGIURA HINAKO, 'Gakkō', in *O Edo de gozaru* (2006), pp. 249-50.

(TURN OVER

## SECTION B

4 Translate the following passage from an unseen text into English: [40 marks]

## 進化する高齢者

ところが、ある日、電車の中で筆者はとても新鮮な光景に出会った。一人の女性の高齢者が優先席の前に立って、そこに座っている若いサラリーマンに対して、「すみませんが、座らせていただけませんか」と穏やかな口調で（決して相手を非難するような口調ではなく）言ったのである。言われた若いサラリーマンは、びっくりしたのであろう、反射的に席を立てて車内の別の場所に黙って移動した。彼女は優先席に静かに腰を下ろした。筆者は彼女の一連の行動を見て、新しいタイプの老人の出現を見た思いがした。卑屈になるのでもなく、かといって図々しくなるのでもなく、きわめて自然に、自分が優先席に座るべき人間であることを呈示することのできる高齢者である。社会の超高齢化と公共マナー（他者への配慮）の低下が同時進行する現代にあつて、そうした厳しい環境に適応すべく、高齢者も徐々に進化しているのである。

「すみませんが、座らせていただけませんか」——この言葉をごく自然に言えるようになるためにはかなりの修行を積まなければならないだろう。筆者も大学を定年で辞めるときまでにはそれができるようになりたい。しかし、その前に、自分が目の前の相手からその言葉を言われたときに、「あつ、気がつかなくてすみませんでした。さあ、どうぞ」と落ち着いて応対できるようにになりたい。高齢者の進化と歩調を合わせて、中年も若者も進化していかななくてはならない。

ŌKUBO TAKAJI, *Nichijō seikatsu no shakaigaku* (2008), pp. 69-70

穏やか	pleasant
口調	tone
非難	criticise
反射的	by reflex, reflective
卑屈	servile, subservient
図々しい	impudent, shameless, bold
呈示する	to present, indicate
配慮	consideration, attention
修業	pursuit of knowledge, training
対応	respond

**END OF PAPER**